

〔松屋筆記 九十二〕くつめきの病

小兒の咳病を俗にクツメキといへり、宇治拾遺物語十卷十六藏人頓死語に、臺盤に額をあて、
 のどをくつくとくつめくやうにならせば云々とあり、痰咳にて、喉のクツクツと鳴病なれば、ク
 ツメキとはよべるなりけり、砂石集三上卷右一丁癩狂人之利口事條に、或里ニ癩狂ノ病有ル男ア
 リケリ、此病ハ、火ノ邊、水ノ邊、人ノ多カル中ニシテ發ル、心ウキ病也、俗ハクツチト云ヘリ云々と
 あるクツチも、近くかよひてきこゆ、蛸螻をくつくとぼうし日記などいふも、其鳴始るをり、くつ
 くつとくつめかして聲を立ればなるべし、

〔内科秘録 十三〕小兒頓嗽

頓嗽ハ又頓咳トモ云フ、我郷戸○ホニテハ百日咳ト稱ス、方言ニケイケイ、シヤブキト云ヒ、又シイ
 レ、シヤブキト云フ、一種ノ外邪ニシテ、流行スルトキハ、延門合戸盡ク之ヲ患フルコトアリ、小兒
 初生ヨリ十歳前後ノ者ノミ之ヲ患ヒテ、大人ハ之ヲ患ヒズ、其邪必ズ肺ニ著コト、猶天行赤眼ノ
 邪ハ必ズ眼ニ著キ、馬脾風ノ邪ハ必ズ咽ニ著クガ如シ、初ハ風邪ノ如ク、咳嗽連聲頓頓トシテ止
 マズ、心下拘急シテ乳ヲ吐キ、食ヲ吐キ、續テ粘液ヲ吐キ、或ハ吐血スルモアリ、胃中ノ物ハ殘ラズ
 飜出シテ、殆ド悶絶セント欲ス、寒熱ナシト雖ドモ、乳食共ニ吐キ盡スユエ、身體羸瘦シテ、初生ノ
 兒ハ稀ニ死スルコトアリ、世ニ奇方多シト雖ドモ寸効ヲ奏セズ、日數大約百日ヲ歷レバ自ラ愈
 ル者ナリ、因テ百日咳ノ名アリ、或ハ疳ニ變ジ、或ハ癩ヲ發スルモアリ、

〔叢桂亭醫事小言 五〕疳

小兒咳嗽ニ百日咳トモ又連聲咳トモ云、ケイケイシヤフキ又クツメキトモ云、百日バカリノ内
 煩フコト流行スルトキハ一面ニ病ム、咳ノ甚キトキハ乳モ食物ヲモ吐スル、風寒ニ冒スレバ、夜
 ノ間ニ別テ強ク咳スル、連綿ト治セザル内ニ黃瘦シテ大病ニナルモノアリ、疳ノ候ヲアラハス